

学認を利用したキャンパスネットワークの利用者認証

発表者 西村浩二（広島大学情報メディア教育研究センター）

広島大学では、2007年にセキュアでスケーラブルなキャンパスネットワーク HINET2007 の構築を開始し、2008年5月から運用を開始した。HINET2007は、全学電子認証システムと連携する約460台の認証スイッチや約2,000の独立したファイアウォール機能により構成され、(1) 全学的な一元管理体制、(2) VLANによる柔軟な仮想配線の提供、(3) 個別ファイアウォール機能の提供、(4) すべての接続場所において利用者認証を要求、などの特徴を有する。約460台の認証スイッチにはUPKI オープンドメイン証明書自動発行検証プロジェクトから発行されたサーバ証明書がインストールされており、利用者はWeb ブラウザを用いた認証を経て、ネットワーク利用が可能となる。

一方、ネットワーク認証を行う際に生じる問題のひとつに、学外者によるネットワークのゲスト利用がある。広島大学では、教職員が責任者となってゲストアカウントを取得する仕組みが用意されており、学会等での学外者によるネットワークのゲスト利用が可能となっている。しかし、責任者はインシデントに備えて利用者リストを記録・管理し、インシデント発生時には情報メディア教育研究センター等が行う調査の際に利用者側の窓口になる必要があるなど、規模の大きな学会等では責任者の負担も大きくなる。また利用者にとっても、慣れないユーザ名、ランダムなパスワードの入力を伴うゲストアカウントの適正な管理は煩雑となる。

そこで、学認により認証された利用者に対して一時アカウントを発行し、その一時アカウントで自動的にネットワーク認証を行う機能を HINET2007 に追加した。本機能は、学外者だけでなく構成員も利用できる。本発表では、学認を利用した HINET2007 の利用者認証、および広島大学でのシングルサインオンの利用状況について報告する。

